

1. 仙台市のスマートシティ化における基本理念

基本理念

スマート化を通じて
若者が挑戦できる
持続可能でひらかれた
東北の都

THE GREENEST CITY
SENDAI via DX

下記3点のスマート化において、東北地域の参考モデルとなる

- 1 若者が挑戦できる・したくなるまちづくり
- 2 持続可能なまちづくり
- 3 インクルーシブなまちづくり

0. 基本理念の背景

市としての課題認識	20代～40代人口の流出・人口減少
市全体のまちづくりの理念	挑戦を続ける、新たな杜の都へ～The Greenest City SENDAI～ Nature：自然との共存 Comfort：多様性の尊重・共生 Growth：学習・成長機会の増加 Green Light：まちの活性化・交流
調査分析結果から	デジタル化やスマートシティへの支援を活かし、 学術機関や優秀な人材の集積、首都圏へのアクセス、開業率の高さの強みを伸ばすことで、生活・交通利便性を充実させつつ、若者が主体となって活躍する都市を構築することが重要

2. 基本原則

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 人間中心・地域主導のまちづくり | 5 全体最適なまちづくり |
| 2 多様な参画オプションの提供 | 6 柔軟なスキームの検討 |
| 3 透明性の確保 | 7 分野をまたぐ効果創出 |
| 4 基本理念へのコミットメント | 8 多様なエリアを活かした取組み |

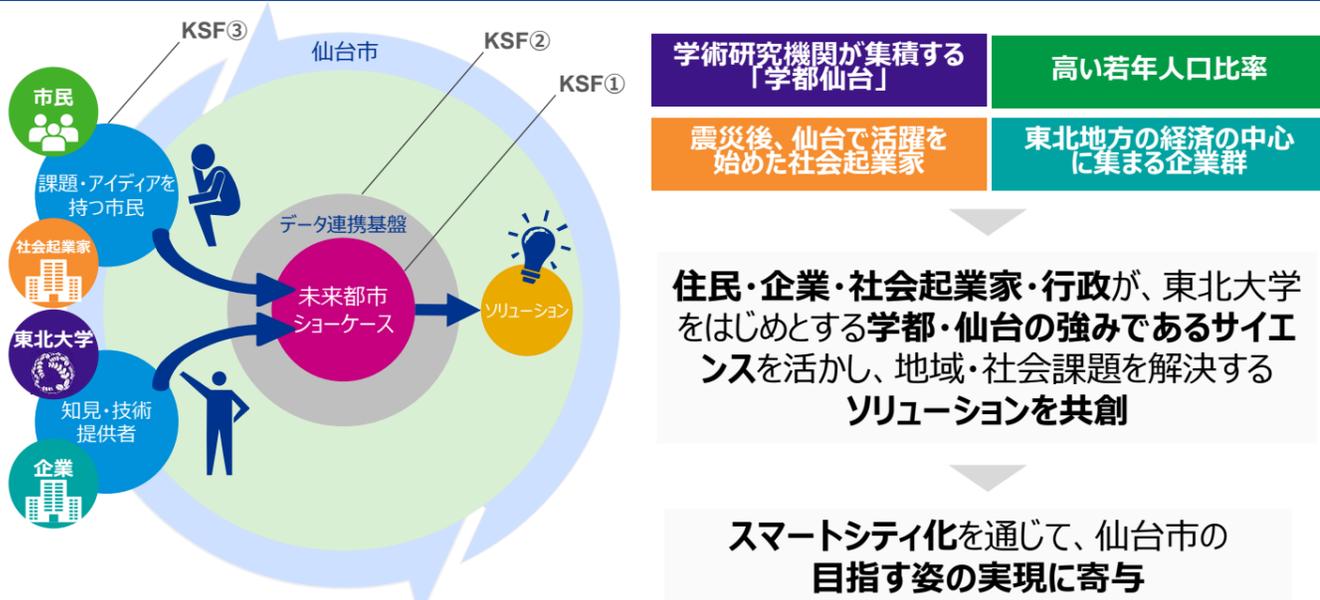
3. 仙台市のスマートシティ化に向けた地域間連携

東北地方との連携 スマートシティ化に向けて先行的に取り組みを進めるエリアにおいて、**各地域の特性を活かしたモデルを構築し、市内各地へと取り組みを横展開**

- **東北大学キャンパス** > 市内中心部において、先端研究とまちづくりが連携するエリア
- **泉パークタウン** > 郊外ニュータウンにおいて、豊かな自然と新しい技術が融合するエリア
- **中心部商店街** > 市内中心部において、ビジネスと商業と観光の中心となるエリア

他地域のスマートシティとの連携

4. 取り組みの推進力～市民×大学×企業の連携（C-U-B：Citizen-University-Business）～



5. 鍵となる3つの要素（KSF：Key Success Factor）

- 1 **オープンイノベーションを推進する「未来都市ショーケース」※の整備・運用**
※未来都市ショーケースはリビングラボ機能を有した場
地域の抱える課題の解決に貢献するソリューションを創出
- 2 **個々の領域で獲得したデータを連携する「データ連携基盤」（都市OS）の構築**
分野・サービス・地域などの垣根を超えたデータの利活用
- 3 **高い市民エンゲージメント**
企業・組織だけでなく市民がスマート化の恩恵を教授

基本施策の体系とスマートシティ化を通じて目指す姿



基本方針①：
若者が挑戦できる・したくなるまちづくり

基本施策①-1
まなびたいと思う環境の構築

As Is: 宮城県内の高校卒業生の自県進学率は約60%で、高校卒業生の地元進学率の全国平均（約37%）と比較すると高いが、旧帝国大学を抱える都道府県の平均（約63%）と比較するとわずかに下回っている

To Be: **より多くの学生が希望に沿ってまなぶことができるまち**

基本施策①-2
働きたいと思う環境の構築

As Is: 宮城県の学卒者の地元就職率は約65%で、全国平均（71%）と比較するとやや低いが、宮城県出身の県内に進学した学生の7割、県外に進学した学生の3割は地元での就職を希望しており、地元で就職を希望する学生の割合自体は全国に比べてやや高い／宮城県に事業所を構える大学発スタートアップの数は47都道府県中7位

To Be: **より多くの仙台市出身・在住の学生が市内に住みながら希望に沿った仕事ができるまち／スタートアップが安心して成長できる環境を提供できるまち**

基本施策①-3
暮らしたいと思う環境の構築

As Is: 仙台市民の9割以上が住みやすさを感じており、8割以上が今後も居住を希望しているが、継続的な居住を希望しない市民の間では生活利便性や家賃・物価等への不満がみられる

To Be: **市民の不満に迅速に対応しより多くの若者が市での暮らしに満足できるまち**



基本方針②：
持続可能なまちづくり

基本施策②-1
まちのレジリエンス向上

As Is: 東日本大震災で露呈した大規模・集中型のエネルギーシステムの脆さと、市内の社会資本老朽化対策・耐震化、防災力向上の重要性

To Be: **インフラやエネルギー供給の防災性が高いまち／防災力が高く「仙台防災枠組み」をリードする取り組みを進めるまち**

基本施策②-2
安心・安全で快適な杜の構築

As Is: 地球温暖化等の影響で頻発化・激甚化する自然災害への対応や、他都市に比べて高い緑被率を誇る一方で、街路樹による道路の安全性低下や倒木等のリスク、また増加する市内の公園・街路樹の維持管理コスト等に対する対応が求められている

To Be: **市民が杜の緑の豊かさを享受し、安心・安全に暮らすことができるまち**

基本施策②-3
温室効果ガスの排出量を削減する取組みの推進

As Is: 市として掲げた、2030年までに温室効果ガスの排出量を35%以上削減する（2013年度比）という目標を達成するためには、現状からさらに20%以上の温室効果ガスを削減する必要があるが、他都市に比べて移動時に自動車に依存する市民が多い等目標の達成を困難にし得る要素も見受けられる

To Be: **市民生活を維持・向上しながら、温室効果ガスの排出量実質ゼロのまち**



基本方針③：
インクルーシブなまちづくり

基本施策③-1
住民一人ひとりの個性が理解・尊重され、助けあえる社会の構築

As Is: 仙台市の高齢者・障がい者・外国人人口は増加しており、支援の拡大が求められている／多様性に関する市民アンケートの結果では、外国人への多言語対応の強化や、男性の育児への参加促進、性的マイノリティに対する支援や制度の拡充を求める声が寄せられている

To Be: **年齢・性別・国籍等の多様な市民がお互いの困りごとを共有し、必要に応じて助け合うことのできるまち**

基本施策③-2
働きたい人が働ける雇用環境の構築

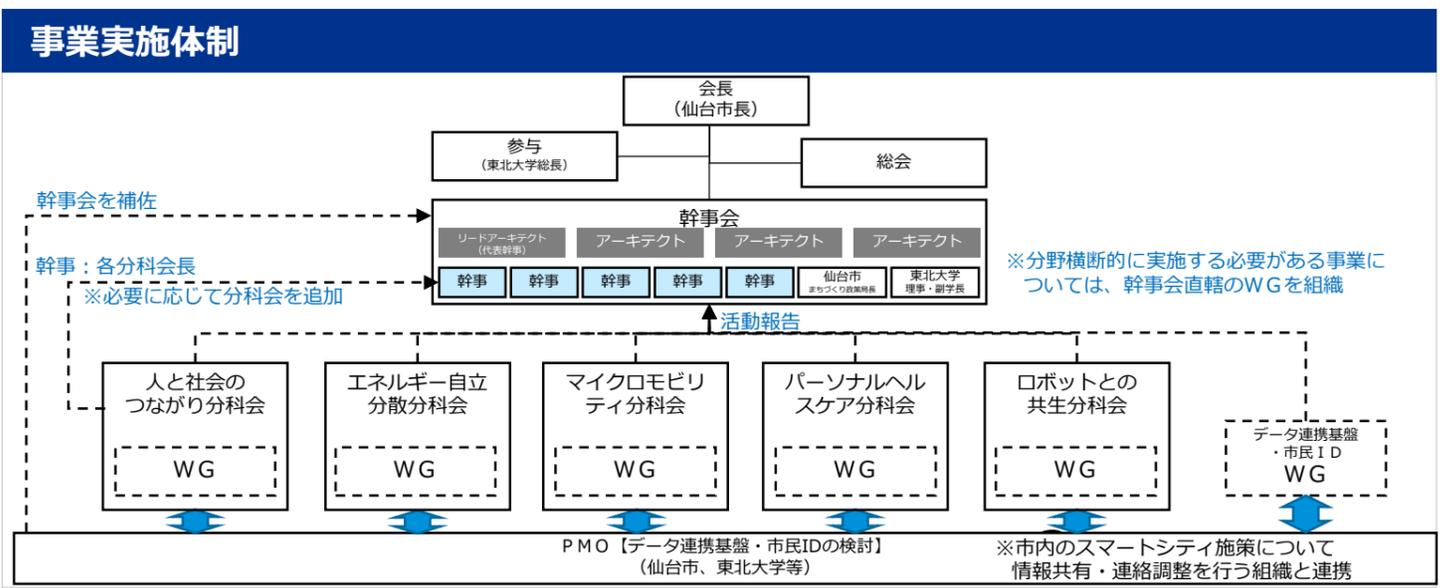
As Is: 東北6県において、働き方改革に取り組む意欲のある企業は多いが、テレワークや副業等の働き方改革に取り組んでいる企業は少ない／高齢者・障がい者・外国人で就労を希望する人もいる一方、雇用者側の受け入れ態勢等が整っていないことが原因で就労できていない人もいる

To Be: **就労を希望するすべての市民が各人の状況に合わせて柔軟な働き方ができるまち**

基本施策③-3
すべての市民が生活に必要なサービスにアクセスできる仕組みの構築

As Is: 仙台市在住の外国人には日本語でのコミュニケーションに困難を感じている人が多い／仙台市の行政DXは人材面等で課題があり進んでいない／仙台市のオンライン診察普及率は他の都市に比べてやや低い／市郊外において自動車分担率が特に高く、高齢運転者による交通事故が増加している

To Be: **すべての市民が必要な時に必要なサービスにアクセスできるまち**



ロードマップ

	2022	2023	2024
人と社会のつながり 主なサービス	バーチャルキャンパス構築、実証実験、社会実装・運用・検証		
ヘルスケア 主なサービス	青葉山/星陵キャンパスにおける実証		
ロボットとの共生 主なサービス	先端的な実証の実施		
エネルギー自立分散 主なサービス	各種設備の導入計画・設備導入（青葉山キャンパス）		
マイクロモビリティ 主なサービス	実証運行	青葉山キャンパス内での本格運行	以降、キャンパス外への実証および実装の取組み
データ連携基盤	先端的なサービスに準拠する機能や社会実装部分の設計、構築	初期バージョンの本格運用	以降、データ連携対象の拡張とそれに伴うバージョンアップ、実証と実装